

収益及び業績について

収益

- ◎ 業務純益は、基準金利の上昇による貸出金利息収入・預け金利息収入の増加が、預金利息の増加やATM時間外手数料無料化による収入減を上回り、**26億8,700万円**（前期比2億8,400万円、11.82%増）となりました。
- ◎ 経常利益は、不良債権を3億4,600万円費用処理したことや、実質破綻先の担保評価を見直し引当金を2億8,700万円積み増したことで、また、株価下落により株式等1億3,100万円を償却処理したことなどから、**22億5,600万円**（前期比1億6,800万円、6.93%減）となりました。
- ◎ 当期純利益は、法人税等充当額7億3,000万円と法人税等調整額100万円を差し引き、**15億1,000万円**（前期比2億3,500万円、13.46%減）となりました。

19年度は、年度後半からサブプライムローンに端を発する景気減速の影響から、若干の減益となりましたが、地元金融機関として地域に密着した業務推進に努めた結果、比較的良好な決算となりました。

預金と貸出金

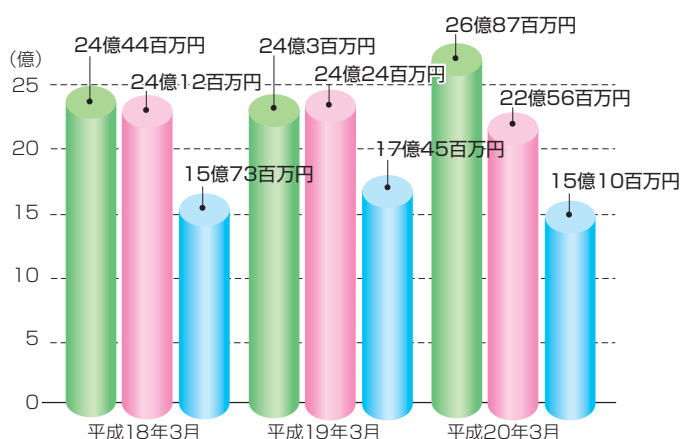
- ◎ 預金については、平成18年度に実施した創業80周年運動の反動もあり、前年増加を下回る結果となりました。科目別では、定期預金については、平成19年11月以降に3回の「特別定期預金」を取り扱ったものの、前年度の創業80周年記念定期の満期出金の影響が大きく、49億円の増加に止まり、定期性預金では30億円の増加となりました。流動性預金については、普通預金の増加と別段預金の高止まり等により100億円の増加となりました。人格別では、引き続き「個人預金」が堅調で130億円増加し、そのまま預金全体の増加となりました。結果、預金全体の期末残高は**5,384億円**（前期比131億円、2.50%増）となりました。

- ◎ 貸出金については、地元金融機関としてできるだけ多くのお客様のお役に立てるよう貸出先数に拘った取り組みに努めましたが、年度後半に、サブプライムローンの影響で景気が減速し、事業性融資が伸び悩む結果となりました。一方、個人向け融資については、住宅ローン・小口個人ローンに取り組んだ結果、57億円の増加となりました。結果として、事業性融資の伸び悩みを個人向けの融資でカバーし、貸出金の期末残高は**2,260億円**（前期比10億円、0.4%増）となりました。

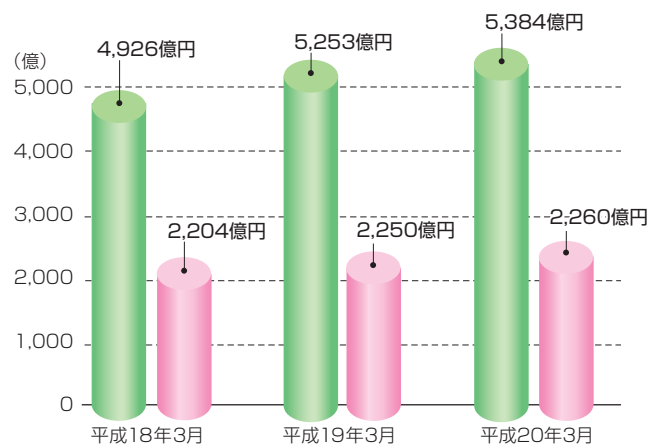
ワンポイントメモ

- ◎ **業務純益**
金融機関の基本的業務で得た収益から費用を差し引いた利益です。
- ◎ **経常利益**
基本的業務とその他の業務で得た収益から費用を差し引いた利益です。
- ◎ **当期純利益**
経常利益に特別利益・特別損失を加減し、法人税等を控除した最終利益です。

収益状況の推移（毎期末現在）



預金・貸出金残高の推移（毎期末現在）



貸出金の業種別内訳

（平成20年3月末現在 単位：百万円）

